

東北大学病院内科専門研修プログラム

2017年10月6日 日本専門医機構による2次審査通過

東北大学病院内科専門研修 プログラムのポイント

- 多数の連携病院

東北大学プログラムに登録しても条件を満たせば初期研修施設でそのまま専門研修を続けられます。

- 豊富な症例と指導医

入院患者 年間約4500名、外来患者 18万5千名、指導医（当院所属）120名以上。

- 学術活動も可能

大学院で学位取得も可能です。

- 研修医・医学生の教育に関与

次の世代の育成にも関わられます。

- 地域医療にも貢献

東北の地域医療を各診療科が支えています。これらの連携施設・特別連携施設でも研修します。

- 宮城県修学資金貸与生も考慮

修学資金貸与生向けの「地域重点内科コース」があります。指定勤務と専門医取得を最短でサポートします。

東北大学病院内科専門研修プログラム

- 定員55名
- 基幹施設で1年以上、連携施設・特別連携施設で1年以上（特別連携施設は6ヶ月以内）研修を行わなければならない。
- Subspecialty領域の研修は通算2年相当まで。
- 基幹施設から開始しても、連携施設・特別連携施設から開始しても良い。修了時に基幹病院にいる必要もない。
- 連携施設・特別連携施設へのローテーションについては、総合内科コースは卒後研修センター、Subspecialty内科重点コースでは診療科が担当する。
- 内科専門研修とSubspecialty研修を併行して行う4年間のコースも設定した。

東北大学病院内科専門研修 プログラム内のコース

- 専攻医のニーズに応じて4つのパターンを用意
- Subspecialty領域が決定している場合（これが基本）
→ **Subspecialty内科重点コース**
 - 東北大学病院から開始する場合
 - 連携施設から開始する場合（連携施設である初期研修先で引き続き研修も可能）
- Subspecialtyが未決定の場合 → **総合内科コース**
- 地域医療を重点的に経験したい場合 → **地域重点内科コース**
- 4年で内科専門医、サブスペシャリティ専門医両方を取得したい場合
→ **内科・Subspecialty内科混合コース**

① 総合内科コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	東北大学病院											
	内科①			内科②			内科③			内科④		
2年次	連携施設・特別連携施設内科						東北大学病院					
							内科⑤			内科⑥		
3年次	東北大学病院			連携施設・特別連携施設内科						東北大学病院		
	内科⑦									内科⑧		

- 希望するSubspecialty領域が未決定の場合。
- ロータート順、外勤等については卒後研修センターが担当。
- Subspecialtyが決まればSubspecialty内科重点コースへ移行。

②Subspecialty内科重点コース (東北大学病院から研修をはじめめる場合)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	東北大学病院											
	診療科内科			他内科①			他内科②			他内科③		
2年次	連携施設/特別連携施設内科（診療科が決定 Subspecialty研修、他内科）											
3年次	東北大学病院（大学院入学も可能）											
	診療科内科（Subspecialty研修, 不足している領域があればその領域の研修）											

- まず東北大学病院でトレーニングを受ける場合（診療科で異なる）。
- 当院の指導医は、原則として診療科の指導医が担当する。
- ローテート順、外勤等については、診療科が管理する。

②Subspecialty内科重点コース (連携施設から研修をはじめめる場合等)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	連携施設内科研修（例：初期研修後そのまま残って後期研修を行う場合等）											
	（所属プログラムは東北大学病院プログラム）											
2年次	連携施設での内科Subspecialty研修（例：初期研修施設でそのまま継続する場合等）											
	（所属プログラムは東北大学病院プログラム）											
3年次	東北大学病院（基幹施設）（大学院入学も可能）											
	Subspecialty研修・不足している領域の研修											

- 当院プログラムに所属し、連携病院からトレーニングを開始する場合（診療科で異なる）。
- 例えば、連携施設である初期研修病院でそのまま研修し、4年目、5年目で大学病院に戻るような場合。
- 当院の指導医は、原則として診療科の指導医が担当する。
- ローテート順、外勤等については、診療科が管理する。

③地域重点内科コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	東北大学病院			連携施設①								
	内科①											
2年次	連携施設①			連携施設②						特別連携施設		
3年次	特別連携施設			東北大学病院			東北大学病院			東北大学病院		
				内科②			内科③			内科④		

- 地域医療を中心とした内科研修を行いたい場合。
- 各施設での研修期間・時期については、固定ではなく相談の上、決定する。
- 1年次連携施設から開始しても良い。ローテーションは順不同。
- ローテーション順等は総合地域医療教育支援部・卒後研修センターが相談対応。
- 東北大学病院で12ヶ月以上研修する。
- （修学資金貸与生の場合）連携施設のローテーション期間は1年6ヶ月、特別連携施設のローテーションは6ヶ月とする。
- 修学資金貸与生は宮城県とも協議して修学資金償還の指定勤務とキャリア形成を両立させるように配慮。

④内科・Subspecialty内科混合コース

内科専門研修とSubspecialty研修を同時に進行し、修了時に両専門医の受験資格を得る

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	東北大学病院											
	診療科内科			他内科①			他内科②			他内科③		
2年次	連携施設/特別連携施設内科（診療科が決定 他内科、Subspecialty研修）											
3年次	東北大学病院（大学院入学も可能）											
	診療科内科						他内科④			他内科⑤		
4年次	東北大学病院（大学院入学も可能）											
	診療科内科（不足している領域があればその領域の研修）											

- 各施設での研修期間・時期・研修内容については、固定ではなく相談の上、決定する
- 診療科より連携施設・特別連携施設へ必ずローテートさせる。派遣期間は1回3ヶ月以上で、特別連携施設は通算6ヶ月以内とする。派遣の時期等は診療科・専攻医・連携施設で決定する
- 東北大学病院で12ヶ月以上研修する
- 内科専門研修+Subspecialty領域専門研修を修了する。
- 現時点で修了翌年に両方の専門医資格が得られる保証はないことに注意。

他院のプログラム（A病院プログラム）に所属している場合 （東北大学病院が連携施設）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	A病院（基幹施設かつ東北大学病院が連携施設）での内科研修											
	（所属プログラムはA病院プログラム）											
2年次	A病院での内科研修						→Subspecialty決定					
	（所属プログラムはA病院プログラム）											
3年次	東北大学病院で研修（Subspecialty研修・不足している領域の研修 大学院入学も可能）											
	（所属プログラムはA病院プログラム 修了認定はA病院）											

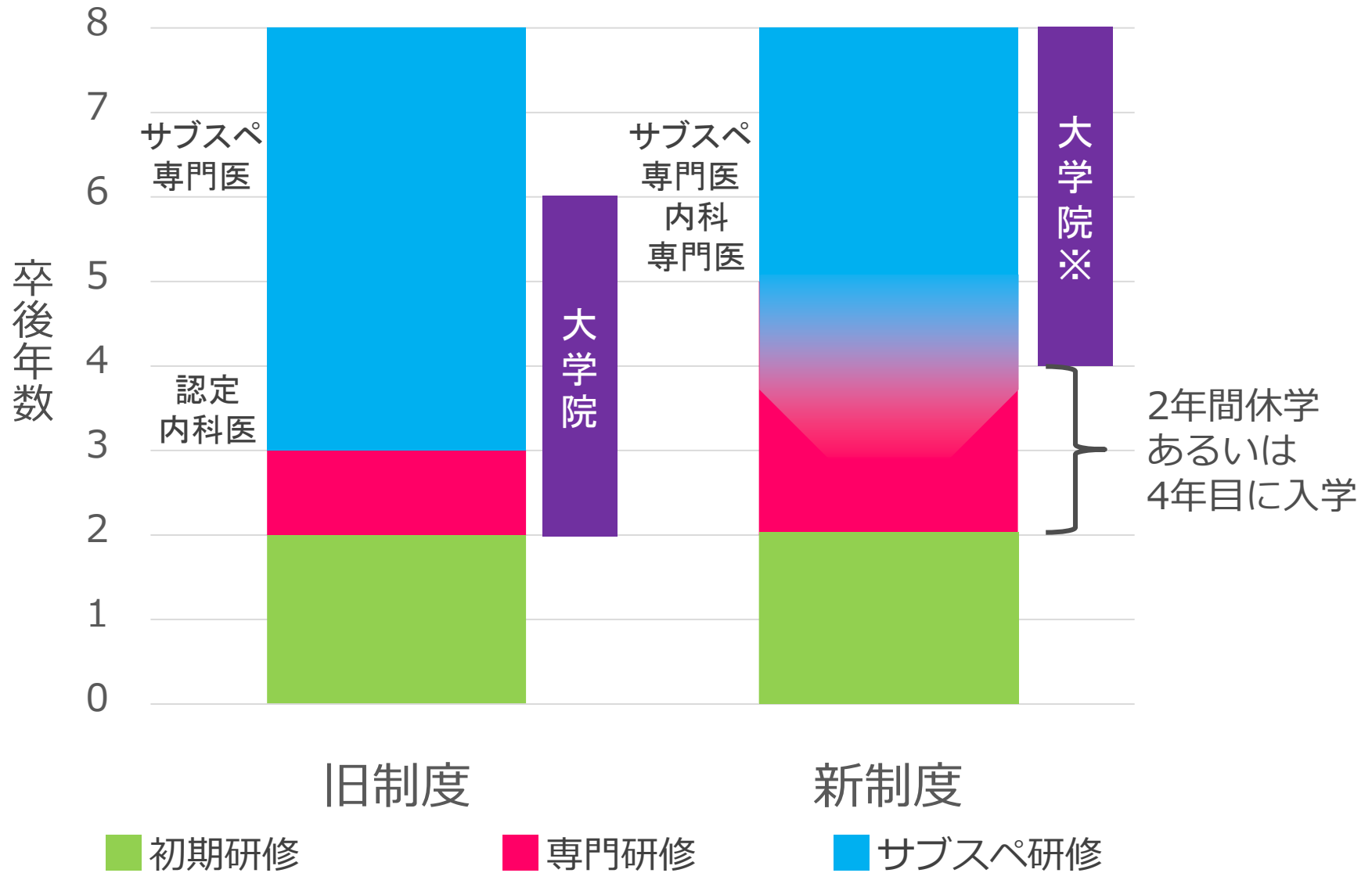
- **他の基幹施設プログラムに所属し**、そこでトレーニングを開始する場合。
- 所属プログラムはA病院プログラムなので指導医、ローテート、修了認定等はA病院が決定。
- 東北大学病院での研修は連続して6か月以上を原則とし、**基本的に入局の上、受け入れる。**
- 入局先とSubspecialty領域が決まれば、専攻医、A病院担当者、診療科が相談し東北大学病院研修の時期を決定。

大学院との併行研修

- 講座により違うため、サブスペ診療科に相談してください。
- 大学院生の病棟診療時間制限（週に15時間）のため、大学院生は実質サブスペ診療科での研修になる。
- 最短では、専門研修2年目から大学院生となることが可能…
 - ただし、初期研修＋連携施設での専門研修1年でサブスペ以外の症例をほぼ全て経験する必要あり
- 実質は専門研修3年目から大学院生となるのが一般的と思われる。
（それ以外の期間→連携施設1年、医員1年）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	連携施設/特別連携施設内科（診療科が決定 他内科、Subspecialty研修）											
2年次	東北大学病院（医員雇用）											
	他内科①			他内科②			他内科③			他内科④		
3年次	東北大学病院（大学院入学）											
	診療科内科でサブスペ研修											

大学院との関係 (サブスペ2年重複の場合)



※大学院入学に関しては各科に相談して下さい

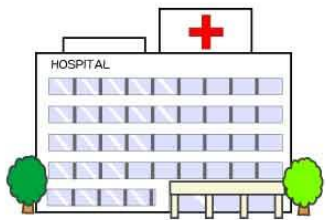
連携施設

北海道	帯広第一病院		
青森県	八戸市立市民病院	十和田市立中央病院	
秋田県	平鹿総合病院	本荘第一病院	
岩手県	岩手県立胆沢病院	岩手県立磐井病院	岩手県立中央病院
	岩手県立中部病院		
山形県	山形県立新庄病院	山形県立中央病院	山形市立病院済生館
	日本海総合病院	公立置賜総合病院	
福島県	医療生協わたり病院	いわき市立総合磐城共立病院	太田西ノ内病院
	寿泉堂総合病院	白河厚生総合病院	竹田総合病院
	福島労災病院	附属総合南東北病院	
宮城県	東北医科薬科大学若林病院	栗原市立栗原中央病院	気仙沼市立病院
	石巻赤十字病院	仙台市立病院	JCHO仙台病院
	仙台厚生病院	仙台オープン病院	仙台赤十字病院
	東北医科薬科大学病院	東北労災病院	みやぎ県南中核病院
	大崎市民病院	坂総合病院	宮城県立がんセンター
	宮城県立循環器・呼吸器病センター	東北公済病院	総合南東北病院
	仙台徳洲会病院	仙台医療センター	
栃木県	国際医療福祉大学病院		
茨城県	水戸医療センター		
埼玉県	深谷赤十字病院	自治医科大学附属さいたま医療センター	
東京都	NTT東日本関東病院	日本赤十字社医療センター	国立がんセンター中央病院
静岡県	静岡済生会総合病院		

特別連携施設

宮城県	大崎市民病院鹿島台分院	公立刈田総合病院	公立黒川病院
	南三陸病院	蔵王町国民健康保険蔵王病院	塩竈市立病院
	登米市立登米市民病院	登米市立米谷病院	気仙沼市立本吉病院
	丸森町国民健康保険丸森病院	栗原市立鶯沢診療所	栗原市立若柳病院
	国民健康保険川崎病院	国立病院機構宮城病院	女川町地域医療センター
	公立加美病院	涌谷町国民健康保険病院	美里町立南郷病院
	栗原市立栗駒病院	石巻市立病院	石巻市立雄勝診療所
	石巻市立牡鹿病院	登米市立豊里病院	

東北大学病院プログラム



連携施設かつ基幹施設

東北大学病院
プログラム
あるいは
自院のプログラム
に登録



東北大学病院
そのまま
東北大学病院
プログラムに登録

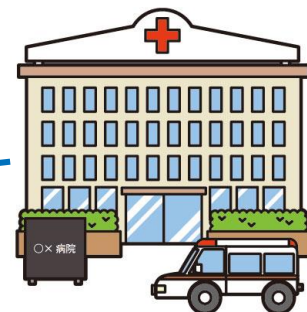
東北大学病院
プログラムに登録



連携施設
(自院プログラムなし)

現在の初期研修先による
プログラム選択のパターン

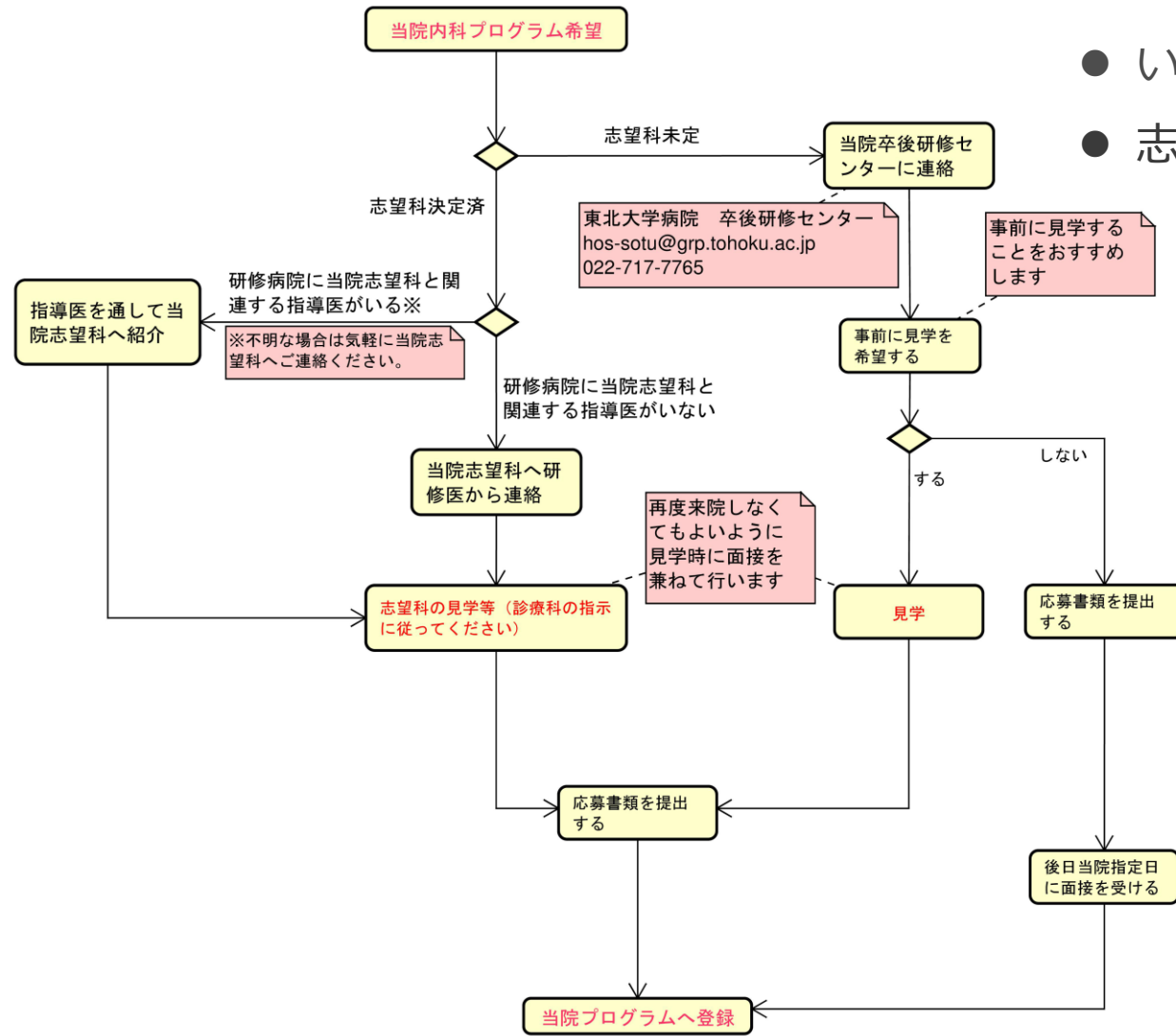
東北大学病院
プログラムに登録



東北大学病院
プログラムと
連携していない施設

当院プログラムの登録方法

- 研修病院に志望科関連の指導医がいる
→指導医から志望科に連絡
- いない場合→本人から志望科に連絡
- 志望科未定の場合、その他不明な点
→卒後研修センターに連絡



東北大学病院内科各診療科 連絡先

診療科名	担当者名	E-mail	TEL
循環器内科	杉村 宏一郎	ksugimura@cardio.med.tohoku.ac.jp	022-717-7153
総合感染症科	青柳 哲史 大島 謙吾	tetsujiaoyagi@med.tohoku.ac.jp koshima@med.tohoku.ac.jp	022-717-7373
腎・高血圧・内分泌科	宮崎 真理子	mamiyaza@med.tohoku.ac.jp	022-717-7393
血液・免疫科	藤井 博司	hfujii@med.tohoku.ac.jp	022-717-7165
糖尿病代謝科	山田 哲也	yamatetsu-ky@umin.ac.jp	022-717-7611
消化器内科	浅野 直喜	asanon@med.tohoku.ac.jp	022-717-7171
加齢・老年病科	冲永 壯治	shoji.okinaga.b6@tohoku.ac.jp	022-717-7182
漢方内科	高山 真	takayama@med.tohoku.ac.jp	022-717-7507
心療内科	庄司 知隆	tshouji-gi@umin.ac.jp	022-717-7327
呼吸器内科	玉田 勉	tamada@rm.med.tohoku.ac.jp	022-717-8539
腫瘍内科	高橋 昌宏	masahiro.takahashi.d1@tohoku.ac.jp	022-717-8543
神経内科	菅野 直人	sugeno@med.tohoku.ac.jp	022-717-7189

研修医の先生へお願い

- スムーズにSubspecialty研修を行えるように、初期研修中にできるだけ多くの症例を経験しておいてください（初期研修中の症例も1/2まで登録できます）。
- Subspecialty研修との重複が2年間認められましたので、Subspecialty研修も見据えて内科専門研修施設を選ぶ必要があります。
- 可能であれば、**病理解剖・JMECC**（日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会）・**緩和ケア研修会**を経験しておいてください。初期研修中の経験でも、専門研修修了要件として認められます。